

輕井
茶話
道中粹語錄

分七寸三	コ	ヨ	紙 表
分二寸五	テ	ク	
分二寸三	コ	ヨ	粹文本
分四寸四	テ	ク	

變通輕井茶話序

學者は足下藩中の貴殿使者乃
 不さん通れや。俗をさしむる
 事あり。その返報は不佞といひ。
 身どもといひ。おれといひ。身どもといひ。
 拙者なり。拙者あり。べいく詞が
 やむべからず。借すも三百つん出すべし。
 古より。夫輕井澤の地なり。
 や川柳傳ふ。一方の色里也。
 今雪國乃肌を振。飯櫃の底を
 大通變じて。變通ふ。淺黄れ
 裏れ裏の。紺れ布子。白あり

變通輕井茶話序

學者の足下藩中の貴殿使者のおみさん
 通のぬし。何れもきさまはきさまなり。そ
 の返報に不佞といひ。身どもといひ。おれ
 がといひ。わつちといふ。いづれも拙者は
 拙者なり。べいく詞がやむべし。なら。借
 りても三百つん出すべし。とは古よりの
 謠なり。夫輕井澤の地たるや。川柳傳にあ
 らはれたる。一方の色里也。今雪國の肌を
 探り。飯櫃の底をはたき。大通變じて。變通

五所^{ごところ}故^{ゆゑ}あり。わはさうしうに
此一^{この}巻^{まき}あふれく世^よ上^{うへ}より
くく。もの買^{かひ}こゝとまゐりし
山の^{やまの}馬^{うま}康^{かう}人^{にん}あり
妹^{いへ}捨^す山^{さん}人^{にん}書^か
巴^ひ

にいたる浅黄の裏の裏のうら紺の布子
に白あがり五所紋ありくとかきしる
したる此一巻あまねく世上にうり詞と
してその買ことはをまつはたそ山の手
の馬鹿人なり。

姨捨山人書

印





釋井 茶話 道中粹語録

始めて旅を信濃路や／＼。東へかへる道急ぐ。馬追分も過來つゝ。暫しとめて打替る。沓懸の宿あとになし。泊り近づく足元は。何所ともなしに輕井澤。旅籠屋ちかく成りにけり。馬士旦那。何屋へをろしやすへ。旅人蔭兵衛。緑色に黒綿紗の装束した半合羽を着て。ばつち尻をしをり也。落物は合羽で見えねども。ありの所より唐さんとの輸入と見え。下着はつむぎのかはりじま。じゅばんのありは黒紗綾と見ゆ。蔭肌かけたる細身の脇差一本さし。何屋でもよいわいな。馬士。跡の方へ向ひ。お供さん。どうしやうね。蔭伊介。黒きもめん合羽を着。布目に大しめのゆかた。上には青梅じまの袴と布子を重ね着して。しんちうの太刀拵を一本さし。これも三度笠をかむる。なんだ／＼。おひつ。馬士。今夜ア何屋にしやうといふ事さ。伊助。旦那はもちろん。おらも木曾路ははじめて

だ。何處でもよさそうな内イ付てくねへ。馬女のおへうちにしよふね。蔭兵衛。ウ、おやまの美しい所がよいわい。馬。そんなら津川屋にしやせう。〇所／＼のはたごやよりこまかけてお泊りかへ／＼とよぶ。馬。津川屋だ／＼。エ、畜生め。モウちつとあるきやアがれ。めんよう姉を見たと足が遅へ。おれに似たさうだ。そいで行ば。程なへつ川の筋。馬。サアお泊りだよ。津川の女さき江戶者と思へ。おはやうお着なさりまし詞もかはらず。おはやうお着なさりまし。それ與八どん。お湯う取らつせへ。奥八。あい。とゆをきて來。サアまあみ足を。蔭。イヤわしはよいわいな。さそんならお前。サア。伊。アイさうして置てくん。さ。ドレも引を解て上やせうか。伊。い／＼にへ。よし／＼。馬。旦那。な

んとゑへ内でごせんせうが。伊。とんだ事だ。馬士どん。茶でも進せうか。馬。い／＼にへ。モウ。呑すと。こんたのその一言で。そこいら中がしめつて來るはナ。馬。ヘ久しいものさ。馬。久しい物じやアねへ。ほんの事さ。アイお供さん。小付が四つ。よししかへ。伊。ウ、よし／＼。大に太儀だつた。酒手を出し。馬。アイ。是は御さんとうでござりやす。そんなら御きげんよう。おさきどん。御馳走さつせへよ。ヘエいめへましい。見れば見るほどゑへつた。ト尻をた。サアレサよさつせへた。そんなら休まつせへ。馬。アイどう／＼。エ、此くたばりめが。又尿をこきやアがるか。唄女郎をかう氣で一番勝負の長ががら／＼半と出で。ごう腹まざれ。かが面ア見りや。目玉が丸く。やつと夜明のびんぞろが出た。しよんかへ引。うたまな。伊。どうぞ。

こぼしてくんなよ。^③アイさうしてお

置なさりまし。^④おらが旦那ア何所だ。

^⑤アイ奥の八疊イ。夫おつれ申さつせ

へよ。^⑥子共初。サアこつちらへ來さつしや

りまし。^⑦おんさしきより。ア、爰じやは

いの。^⑧此荷物共ッ。^⑨初そりやア打造

て置つしやりまし。今に私どもが持て

いぎますべへ。^⑩そんなら頼んます

よ。^⑪とさしき。麗な内でごせんすね。^⑫ゝ、ゑへ内じや。お山を呼うかいな。

^⑬アイ咄しの種によごせんせう。今

に大かたよべといひやせう。^⑭その内あん

^⑮もしへ。女郎衆ッ出し申ませうかね。

^⑯ウ、おらア女郎衆より。こなさんがよ

びたいわいな。^⑰それはもう有がたう

ござります。ほんにお前がたはお江戸

は何處でござります。^⑱あてゝ見な。

^⑳下町かへ。^㉑きついの。あたり

く。さ下町ときけばお懐しうござり

ます。^㉒よう知てじやの。^㉓私も久

しくお江戸に居りましたが。ちつとし

た事で。今こんな所イ來てをります。

^㉔色事出入だの。^㉕何にお前。^㉖イン

ヤさうじやろうく。^㉗マア夫そらそ

れにしてお置なさりまし。そして女郎

衆はとしま衆かへ。^㉘おもちろんく。

^㉙イヤわしは新造がよいぞや。^㉚アイ

そんなら。としま衆としんごう衆にい

たしませう。^㉛と勝手へ入。此間に初干物の

^㉜此肴を見や。^㉝とんだ事。ぶゑんの

干ものだの。^㉞いんね。ぶゑんじやア

ござりましねへ。あじの干物でござり

ますよ。^㉟番伊。ハ、ハ、ハ。^㊱立て。さあ

お出なさりまし。^㊲一人あわ。一人は。

^㊳年二十四五と見へ。黒もめん紋付の布子。も

劉漢。色の木綿うらぶき二寸ばかり出したるを着

手に持ながら来る。下着は三つ四つ着たやうに見

ゆれども。皆ふり斗とち付た物にて。どうか。一

下はわた入一つなり。是此所の風俗と云々。一

人は。^㊴年十六斗。花もめん惣もやうに。

ん帯を尻けにして。是又糸りは四つ五つ着たや

うに見へ。さしきへこはく出て片ひざ立てすは

る。^㊵さかづき。アイ。憚ながら。と蓋兵

とりあげ。^㊶うき。あいの。おんで。さこるえてうき

サレわしにかへ。遠つたんべへによ。

^㊷さこるへてうき。うきサレわしにかへ。遠つ

たんべへによ。^㊸わらひな。いへお前でこ

ざります。^㊹うきどなたもお早うござり

ます。してのみ。さああげますべへ。^㊺わ

つちかへ。で。あい。あげんしよう。

^㊻とかるもへ。^㊼か。ひとつへせへますべへ

ちきにさす。^㊽か。ひとつへせへますべへ

かの。^㊾伊をかきさこ。へせへつこなしき。

^㊿か。そんだら。とらけてのむ。此盃せひ加兵

衛にさす管の事なれども所が

らにて。其様なきま。[㋀]こ。お盃はわたし

が。お預り申ませう。[㋁]とをさ。伊なんぞ着

アねへかね。[㋂]お前がた御酒ウ上りま

すかへ。[㋃]旦那無地だが。わつちや

ア呑やす。[㋄]そんなら何ぞあげたらよ

からうが。爰らには何もお肴が。玉子

はへ。伊其卵よかろう。左様なら今に。勝手へ入。サアお前がた。ちつと咄してもしなさらんかい。あるはじめてといふ物ナあじなアもんで。これぞといつて語るべき事もおざんねものさ。それにハアお前がたの様な江戸衆にやア。何をいつてもわらわれべへと思つて。語るべへと思ふ事もかたられねへちやあ。ノウきさん。うさうだア。それにハアわし共がやうに年のすけねへ者ア。猶さら笑われべへとおもつて。口さアきかれねへ。何だか怖いと思ふせへか。げへにさぶいようだア。伊ナニ江戸者だとつて。何もそんなにこはがりなさる事アねへはナ。さむひのは。窓の明て居るせへだ。たてよう。と立て窓。窓たアあんの事だかおもやア。さまの事だもし。うき何をいふにも。でかく遠へ申すよ。

よんべもお客がてうちんがめつからねへとづて。さがさつしやるから。何だと思つたら火俗の事さ。と膳を二膳持あい。お吸物が出来ました。伊是はおせ話。サア旦那。取て。これは變の。コレ見や。とわんの内。伊あれが愛の卵か。江戸じやあばた餅といふせへ。ア、。あなたア御酒をあがらんさうだから。それで。伊そんならゑへ。とこれふ。是は正眞のたまごだ。かにハア玉子に精進なアござらねへ。皆なまぐさへもし。伊いゝにや。よし。コレ此箸を見や。伊なんでも今夜アへんちきさ。うきヲ寒竹の事を。お江戸じやアへんちくといふげだの。初お客さんがた。湯うあびさつしやりませんか。ほんに今の内風呂へおはわりなさりましな。伊あい。旦那サア。伊そんならさうしようかいの。初サア

来さつしやりまし。と先へたてば。もつい。伊サア一盃吞なさらんか。いへ。マア后にいたゞきませう。伊後といはすと吞なせへナ。伊ナニよさつしやりまし。まだいそがしかんべへ。アイ又今におまんまを出しますから。忙しうござります。伊そんなら行てきな。はい左様なら。水いらすに御咄しなさりまし。と立て。伊お前のみなさらんか。いゝへサ。ちつとでものむとハア面が猿のように成申よ。伊それでも今夜アさむいからよかろう。何ハアさぶい折に吞と。一倍さぶくなり申すよ。伊さむかアもつとこつちィ寄なせへ。最前からさうはおもひますが。わしらが様な者アさぞいやだんべへと思つて。遠慮のヲします。伊ナニいやな事があるもんだ。すつと爰へよりな。伊そんならゆるさつしや

りよし。どうでへア。お江戸サの女郎衆のやうに。何もおもしろへ事アおさんねへが。其代にやア寐て見さつしやりまし。天竺までも。げて見せますべへ。伊が。夫は何よりさ。かれこれな。謝より上。サア伊ス。はいらんかい。伊エあい。サアいきますべへ。うきさんはどうしました。加今そこい。所へい。ちやをく。サア茶進ませう。加あ。か。そんたらサア。便いかう。と立て行か。うき。コレかるさん。浴衣りば竿サアイかけておぬたによ。か。おい。加湯へはゐつたさか。い。かう腹かへづたようじや。うき。今におめしが出ますべへ。マア酒でも呑つしやりませんか。加わしは酒は根から呑やせん。お前のみなさらんかい。うき。わしものみましねへ。加そんなら是がよろ。たべなさい。をやる。うき。是アはあ

好だもし。ア食つしやりませんか。加わしはモウいやじやはいナ。くはんせ。うき。そんたら。と手ぐまに。加はんにお前はゑらう好なさうで。うま。さうな食ひやうじやわいの。うき。げへに好だアもし。加大槩いくつほど給なさる。うき。何さ。お江戸衆なんだア。信濃者とつて大喰するやうにいはいつしやりますけれど。私どもはそんたアじやアござりましねへ。此位のぼたもちだら。十七八もくへば澤山だもし。あ。い。おまんまを。ヲヤもうお一人のお客わへ。うき。今湯サアいかつしやりました。加。そんならマアお隣イ出さうかね。うき。いんナア。さつきからげへにひだるいといはつしやるから。マア爰へ出しな。加。ほんに先イ給いせう。さ様なら。さうな。お一人は又お跡でも。と膳をす。何もござり

ません。加。是はお世話。お前。お頼んまうしますよ。うき。あ。又おとなりへ出さねへけりやア成やせん。うき。お隣は誰だアもし。加。田毎さんの彌五さんでせんす。うき。ワ、彌五左衛門さんが来さつたか。夫アハア。田毎さんナア。うれしかんべへ。加。この頃じやア。追分の松屋とやら、いきなさとサ。うき。さうだアと。何でもハア男といふ者ア。まづいもんだア。加。夫ならお頼ん申やすよ。行。うき。それでもハアめしびつが。加。おはちは今によこしやす。その内。加。アイめしびつと。と持来り。うき。サア替さつしやりまし。加。アイそんなら。コレサかる盛てくんな。うき。ア。ひだるいといはつしやりまし。たじやアおさんねへか。加。まだ食やすが。そんなに盛付ちやア。くひにくい。うき。どうでもお江戸衆だあす。

わし共が方^はな^らん^どじやア。絶食^{ぜつじく}だアといふ病人^{びやうじん}が。此位^{このくらい}にもつたのヲ三盃^{さんはい}斗^はアくひますよ。サアお汁^{じゆ}のク進^{すす}ませせう。加^かそんなら憚^{はかり}ながら。うき アニはどかり。あせハアなんぼかき立味^{たみ}噌^{せう}だアとつて。千葉^{ちやへ}斗^はじやア悪^{わる}かんべへ。上げのヲも入^{いれ}ますべへ。加^かおかしなうでもよいわいな。此所^{このところ}へ伊湯^{いとう}より上^うり来^きる。わしがお客^{きやく}がひだるいと云^いはつしやりますから。先^{さき}サはじめましたよ。例^{れい}よし。うき お前^{まへ}チの膳^{ぜん}もさういふべへナ。伊^いアイさう云^いてくん^な。手拭^{てふき}ひはどうさつしやりました。伊^いはんに置^おきた。一寸^{いちゆん}と取^とて来^きてくん^な。加^かヤレはいくちもねへ事^{こと}だア。に取^とる。伊^いなんぞくへる物がごせんすかね。加^かいんにやモウ。やつぱり夕^{ゆふ}の通^{とほ}りじやはいナ。伊^いそいつアいけねへ。初膳^{しよぜん}を持^もち来^きる。サアお前^{まへ}もくはつしやります。

し。アゼ刈^かもさんわへ。伊^いイへ今一寸^{いまいちゆん}と手ぬぐひをとりに。加^か是^{これ}だんべへの。伊^いウ、それ。加^かうきさん。大^{だい}にお世話^{せわ}話^わよ。うき 何^{なに}ハアせわな事^{こと}もおさんねへ。あつちにもお客^{きやく}が有^あから。お崎^{さき}どんがいそがしかんべへと思^{おも}つて。加^かはんに彌五^{やご}さんも来^きさつたとの。うき さうだアとき。初^{はつ}アイお食^くを替^かえつしやりました。伊^いウ、さあ。加^かアゼついて居^ゐすともゑへぞい。初^{はつ}そん^ならお頼^{たの}ん申^ますべへ。うき めしびつうはそこい打置^{うちお}たがゑへ。初^{はつ}湯^{とう}サ持^もてきま^すすべへ。何^{なに}ぞ替^かえつしやりました。伊^いいんにへ。モウ旦那^{だんな}。なんと木曾路^{きそじ}はむごい。加^かとんとさかなのな^い所^{ところ}じやの。よう何所^{どこ}でも出^ですもんじやが。アうづわとやらもないかいな。加^かアイうづわも少^{すく}へげだ。高遠^{たかの}の御殿^{ごでん}様が此^{この}前^{まへ}も甘兩^{かんりやう}とやらで買^かつしや

りましけ。伊^いわらひなヘナ高^{たか}い物^{もの}だの。うき ほんに。わしも一度^{いちど}鳴所^{なりどころ}を聞^きましづけが。きつくはいくと鳴^なましたつ^け。勝^{めし}とれる。うき おくたびれなさりまし^け。たらう。お床^{とこ}にいたしませう。サアお前^{まへ}がたも着^きけへてお出^いなせんし。加^かそん^なだら サアうきさん。うき あい。二^{ふた}人^{にん}着^き替^かへ。加^かこなさんの物^{もの}云^い斗^はりは。かわい^{らしい}わいな。うき ほんに。初^{はつ}では噺^{はな}をか^かしうござりませう。伊^いイヤもうと^{んだ}變^{へん}よ。うき さうでござりませう。私^わ共^{ども}がき、馴^なて居^ゐてさへをかしい事^{こと}がござ^ります。伊^い時^{とき}旅^{りょ}代^{だい}は。うき アイ明日^{あした}でもようござります。伊^いそん^なら。あ^{すの}朝^{あさ}一所^{いよ}に勘定^{かんと}しやう。うき 取^とてあ^いだを仕切^{しき}らすは悪^{わる}うござりませう。加^かウ、まんさらではい^いなもんじやナ。うき 左^{ひだり}様^{さま}なら斯^かいだしませう。戸板^{といた}を横^{よこ}に^して仕切^{しき}る。伊^い屏風^{びやうぶ}の氣取^{きと}はどうでござんす。加^かと

んと詫^わた物じやナ。^三ハイ御きげんよう。^四例そんならあすは七半立だよ。^五ア^イかしこまりました。^六加おさらば。^七例今夜アゑ江戶みやげでござんすせへ。^八加ほんにはなしの種じやナ。^九例うづわの間ちがひなんぞはきつい事チ。^加イヤもうやう／＼こたえて笑はなんだわい。そしてマアあのわしが女郎が。ぼた餅を十七八くふといふたわいナ。^伊ほんにかへ。ハ、ハ、ハ。^{所ニ來ル}
^加るサアお前がた。そべらつしやりま
しな。^加サア寐よう／＼。^{うき}夫だらわ
しは先^サねますよ。^{と床へ}^加るおめへも
そべらつしやりましな。^伊アイ今に寐
やすが。あすの朝まごつかねへやうに。
何かをちつと取あつめて置いてねやす。
^加る。そんだらわしは。その内お客の連
衆がきてござるから。一寸といつてき
たくござりますが。夫ともハア悪くお

もはつしやるべへだら。いきますめへ。
^伊ナニサよし／＼。いつてきな／＼。
^加る。そんだらいつて來ますよ。^{と出}
廻しといふ所かいの。^伊そんなこつた
さうさ。^{うき}まあしたア何の事だへ。
^加同しとは何さ。ア何き摺木の事さ。
^{うき}その摺木がどうしたもし。^加い、
ヘナ土産に買った摺木をよう仕廻してくれ
といふ事いの。^{うき}アゼお江戸にやアお
さんねへか。^加江戸にも有はあるけれ
ど。名物じやから土地にするじやわい
ナ。^{うき}何所サアの名物だアへ。^加アノ
何さ。東海道の薩陀峠の名物さ。それ
じやさかゐ。碓井峠の孫杓子。さつた
峠の孫すりこ木といふわいの。^{うき}は
てなもし。アノ孫杓子ア。疱瘡の呪ひに
成げだの。^加ウ、孫摺木は麻疹のまじ
なひサ。ほんに疱瘡といへば。お前の
つむりはとんと疱瘡疾のやうじやわ
い。^{うき}あせへ。^加櫛もかうがいもみ

な赤いさかひにさ。^{うき}よくあんでも
いろ／＼の事べへいはつしやる。憎ら
しいの。^{とつめる}これはいつく^加ヲ、痛
むかばらぬところ也。^伊なんだかもてるといふも
んじやアねヘチ。^{うき}聞つしやりまし。
さま／＼の事べへいつてなぶりやる事
よ。^加ナニなぶるのじやないわい。コレ
伊ス。はやう仕廻て寐やいの。^伊あい
もうふせります。おらが女郎衆アどう
したか知らん。^{うき}今に來さります。
^伊ねて待ふかのと。^と^加かるもさ
んとやらは客衆でもあるかいナ。^{うき}
どうかしらましねへ。アゼあの人に
まはすとも。もつとこつちらイ寄つし
やりましな。ヤレハげへに氣のつまつ
た寐ようだもし。^{さあ解}つしやりま
し。^加お前も。な。^{うき}わしやアハア
所じやアおさんねへ。コレ見ささつしや
りまし。で居申よ。お江戸の女郎衆
アなじみにならねへけりやア。おびさア

アとかねへさうだが。わしらアハア三

味のウかちる事もならず。江戸ぶしナア

知らず。何も面白へ事アおさんねへか

はりに。サ這入ちやア。勤とやらアお

つはなれて女夫達だ。モシ。加そんなら

解かいナ。うき。サも。

サもおつ取て。らサ割込なさろ。夫

からアはあ。わしがあへやうにすべエ

さ。加是で。かいナ。うき。もつと

さろ。ソレ。かんべへか。しばらく咄

うだ。わしがお客さん寐さつしやり

ましたか。例今まで起て待たが。あん

まりお前の來様が遅へからねやした。

かるそりやアはあ氣の毒だ。もしサアわ

しもねますべへ。ス。今夜アでかく

さむい晩げだ。ちくとあしあつたため

て呉さつしやりまし。例ッ、大分こそ

つばい足だの。かるあせかハアわしやア

冬になると。かゝとサ口があきますよ。

こそばくつてわるくば。よしますべエ

か。例ナ能のさ。コレあつちの女郎衆

ア。かになつたさうだが。なんと

ぬしやアどうだ。かるそりやアハア安

い事だアけれども。何とか思はつしや

るべへと思つて。扣へて居ました。お

前も。ノウとかつしやりまし。例はん

にぬしやア幾つだ。かるわしかへ。今年

取て二十五だもし。例夫にやア若へよ

うだ。かるアはあ若へ事アおさんね

へよ。例やつぱりこつち生レか。かる

余ほど阻て居申よ。例どこだ。かる諷

訪世郷でござりますよ。わしも。ハアこ

んなア所へ来る筈じやアござんねへか、

とつさまがどうかで江戸サいつて。

行衛が知れましねへ。それからハアかつ

さまとわしがすべへ事がねへから。カラ

こけへきました。不便だあとおもつて

くれさつしやりまし。例そして其をや

ち殿ア。江戸に居るのか。かるさうだ

といひますよ。どうぞハアお江戸サア下

つて。尋ね度思ひますけれども。すべへ

やうも御坐りましねへ。例江戸は何處

だの。かるあんでもあま酒のヲ見るや

うな名だつてもし。例どうもそれじや

アしれねへ。斯と醜なれば。ウ、何か麴

町か。かるヤレそのかうじ町よ。例糶

町といつても。廣い事だから知れねへ。

かるそりやアはあ仕方もおさんねへか

ら。マアこつちイ。ねさつしやりま

し。うきさんなんだアモウ夜中だアも

し。例いゝにや。今まで咄しごゑがし

たつけ。大かた例刻だらう。かる例刻

た。何の事だ。例例刻くは例刻

の事さ。かるウ、何だかへ。名比須様の

兄弟ぶんの事だんべへ。例マアそんな

事ださうさ。サアむだアやめて寐よう

ノ。又あすがはよいから。かるアセは

あ今から寐かしはしましねへ。いやじ

やアあんべへけれど。さいせんからの約束よそアから。天竺てんたくまでねへけりやア心がすまねへもし。例ナニもうあつちの客の所で。來たらうから。おもしろくねへ。何はあ外ほかにお客アござんねへ。お江戸サのやうに八重賣とやらアしましねへ。例そんならしさ。此かうな。かどうでもつしやりまし。今夜一晩よるげはおめへの女房にようぼうだアもの。これより。座敷敷客ざしやく細五左衛門。空色木綿紋付くうしきもめんけんぷのたけみじきへてわからず。裏は裾廻しと見へ。茶色木綿ちしきもめんの上の方は中形のちがひ小もん見へるを一つ着て。帯はとゐて有ゆへ何かしら。白もめんしろもめんに黒ぬめのふり袖口そでぐちかけたるじゆはんあらはにうこん木綿うこんもめんのふんどしふんどしも少し出しかけて。床のうへ。是さ／＼こつちよりむきなさろ。細方田舎ほろほうでんか。是もねまきすせじまの油あぶらしたる布子ふしに。黒ぬめの如く光る。色の光あかりぐけを。背中せちゆうをむけてすはりまし。よさつしやりましな。そんだアきげんじやアござんねへ。細五左マアちよつとさ。

是／＼。回。ヤアはあよさつしやりましよ。少しはら立たウ、扱さつはア。おれがいやになつただアな。そんだらどうすべへ。おつふられた所に居ゐべへ答こたもねへ。と立て帯おビを。回。その帯を。エ、もう何の事ことだもし。細。あんの事じやアねへ。こつちよりむきなさろといつても。嫌きらだ／＼といふじやアねへか。回。サア夫もわしがあんまり小腹こはらがつつ立たからの事だアもし。アせはあそんだら追分の松屋まつやサいかつしやりまし。回。そりやアはあ。おらが悪わるむでも有あべへか。ガラさそはれたアからの事だアよ。それもはア友達ともだちならば断ことわりもゆんべへけれど。名主殿なぬしでんの猶子ゆうしの云いれる事ことたから。やあだともいはれねへから。二三次にさんだいアいつたアけれ共。何お身み様に見替みかへべへ。回。そんだら。さつきの奴やつさア。あせ見せさつしやりましねへ。回。おらも見せ

べへと思つたアけれども。さつきヤアはあ。張合はりあひに成つたアからの事よ。何もむづかしい事アねへけれども。でかく文者ぶんしやだアよ。回。どれ見せさつしやりまし。細。ッレ見なさろ。紙入しりより出ですを。回。とつてひこりやアはあ。わしがにやア讀よべれ。よんできけさつしやりまし。細。そんだらおれが。と取とて。〇こうびんにまかせ一筆申入ひとしづめり。過しよべは久／＼物かたりのふ申たあだはあ。其のちはそれ様の事さまべい。思おもひくらし。手のものもから。うちやるやうだつちう。よんべもきやるべいと申事うだゆへ。よふとへ待まちちもふけのし申た故ゆへ。けさあは浅間山あさまののぶびんのみるやうにむねが。がた／＼つんもへ申こつたつちう。たどはあ早く對面たいめんのしたく。がんのふかけてまち申入まじりり。回。成はどへアおもしろく書たアな。返す書かへすの

う讀つしやりまし。圖アニ是アはお讀にやア及ばね。言傳だアよ。回下レ名サ見せさつしやりまし。圖名ア見すとよかんべ。回いんにや。何でも見せなさろ。圖そんた見なさろ。回これであんだもし。圖千年だアよ。回ヤレア可愛らしい名だアな。ぬさア上手なり。惚さつしやる筈だモシ。それだアとつても。こな様とわしが中ア。さのふやけふの事じやアござんねへハサ。互に根性骨ノウ打明て。女房にすべへ。天成べへとつて。やれハア御勿鉢無。天照皇太神宮様のウはじめ。神さま達を置文ニも書入た中じやアござんねへか。今と成てこな様の氣が替れば。わしはハア何としますべへ。余りと云ア。むごつちねへ人だアよ。と。圖ヤレ何でもそんなに氣サもむ事アねへ。おれだアとつても申合のウしたもんだ物ヲ。如何様の事が有たとつても。替るべへ

たア思はねへよ。ヤレはあ泣事アねへはよ。回なき聲 そんた。どの様ナア事があんべへとも。替つて呉ますなよ。圖何ハア。菌柄杓のウ手にとらねへ法もあれ。かはる事じやアねへよ。回ほんたかへ。そんた私ア何も云べへ事アござんねへ。どうしたもんだアかハア。此様にでかく可愛く成たと云も。約束事だんべへよ。夕もお江戸衆ウお客に取たら。床花だアとつて大錢のウ一本くれさつしやつたから。何でも今夜ア仕回て居て呼にやるべへ。思つた所イ來さつたもし。圖そんた。夕のお客にやアげへによく。たア見へたアな。回アせさうじやアござんねへ。マアよく積つても見さつしやりまし。こな様と申かはしのウしてからアはあ。どんな美人男でも。目サ付筈アござんねへ。只ハア明ても暮ても。こな様の心がかはるべへかとおもつて。苦に

なり申よ。圖おらアはあ替る事じやアねへから。お身さま替らねへやうにして呉さつせへ。回そりやアはあ。氣遣ひさつしやりますな。圖そんたらをつばじめべへか。回わしははあ待かねたもし。圖もつとこつちイ寄なさろ。ホンニ碍たアで思ひだした。約束のふんどしサあしたでもよこすべへ。回まだ遅くつてもゑへが。色アあんだアへ。圖強がよかんべへと思つて。手織の木綿のウ上紺に染させたアよ。回そりやハア四年はこてへべへ。圖あせだかハア今夜アげへに寐づれへやうだ。回本とうに起さつしやりましな。圖ウ、か。回わしが、アひきくしてくれさつしやりまし。しばらく。回蒲團の下に。があんべへ。取てくれさつせへ。圖げへになつた。回夜着サ逆さまに着ますべへか。圖ウ、それがよかんべへ。回モウ今度から追分イはいかつしやりますな

よ。○アニアアいぐ事じやアねへよ。モウなん時だアか。となりじやア起たアげだ。○隣ア旅人衆だからおきたんべへ。まだでかく早へ一ね入しますべへ。○そんなら。ちつとの内ねべへかゐ。○わしが能時分におこしますべへ。○降かる。何も落しやアさつしやりましねへか。○例いゝにへ。よし。○蓋わしが柄巻はそこかいナ。○例いゝにへ。爰にやアごせんせん。どうして又なくなりやした。○蓋いやアノ。さ、せん小刀をつかふた時に取たさかゐ。○例そんならごせんせう。よく御覽じやし。○蓋、あつたわいな。○うきわしやア又。何の事だと思つたら。脇指の革頭巾の事だアね。○来。はい。お荷物はみんな付ましたよ。○例アイお世話。○蓋何でも夕から皆こなさんのお世話じやの。○きナニお前。○伊サア参りやせう。ア、大におせわに成やした。○かるうき。一同そんなら。

きげんよく立つしやりまし。○蓋アイおさらば。○きどなたも又お上りもなせんすなら。必お尋ねなすつてくださりまし。○伊そりやアもう知在はなしさ。みな表へ出れば。○衛主。左様なら。御さげまはじめこゝろに。○お静にめしまし。○蓋アイ湯治にでも上つたら又よりやせうハイ。○きハイ。あなたお笠を。○あいと手に取笠の。白きを見れば夜ぞ明にけり。東雲の心うきたつ銜の音。夢に見てさへよいといふ。その春駒に乗初の。仕合よしや木曾始。商ひはじめ。筆はじめ。笑ひはじめになれかしと。はしめて馬鹿を又つくす。盡せぬ春のお目出たに。愚作は満忍信濃新板。